琉球大学学術リポジトリ

卓子・机・台類の家庭製作　ー農家と木工　（４）ー

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-05-12
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 岸本, 幸安
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19629

防注射済みの豚は耳端に刻印を附して識別を容易にしている。

（c）屠畜義務の履行と殺処分の徹底を図る事。前述の症状の病豚が発見されたら畜主は家畜伝染病予防法の規定に依り直に市町村長或は駐在の畜産技師に屠畜なければならない。此の届出が遅延したり又は屠畜を怠ったりすれば其間に病毒が散逸し伝染が拡大し又徒殺乃至悪質の肉商の侵入を招来したために部落全体に累を及ぼす結果となる。又伝染豚は最も危険な伝染源であるから直に殺処分に附し屍体は焼却するか厳重な消毒徐深く埋却する。又感染の疑のあるものは厳重に隔離監視を行う。

（d）管理人を一定する事又飼料殊に残飯類は煮沸して与え飼槽は食塩清水で洗滌し日光に当て乾燥させる。尚お伝染病発生時には河川水の使用を避ける事、豚舎の入口には消毒液（例えばクレゾール石鹸液三%液）の踏込みを設け他人の侵入殊に家畜商等の侵入を厳禁し周囲に鉄条網をめぐらし家禽犬等の放飼を禁止する事、豚の飼槽の残飼を犬が喰い歩いている状況を筆者は目撃して此は最も恐るべき病毒撒布者の印象を強くした。

（e）病毒に汚染された畜舎の消毒。一度病豚が発生すると其の病毒は非常に長期間其豚舎並に土壌に生存すると云われるので其の消毒は徹底を期する必要がある。其の方法としては先づクレゾール石鹸液の三%又はクロールカルキ五%液等で畜舎を洗滌し次いで熱湯で不潔物を洗い落し更に前記の消毒液を撒布するのである。次いで土床の場合は生石灰等を撒布後此を掘起して再び反して埋没し新土と入れ代える。糞は埋没醗酵せしめるか焼却し尿槽には消毒薬例えば生石灰の場合は使用直前に此に少量の水を加え粉末となし撒布し其の他病毒に汚染された諸のある器具は悉く前記消毒液を以て消毒し病害の皆滅を期するおわり。

（宮城正夫）

卓子・机・台類の家庭製作

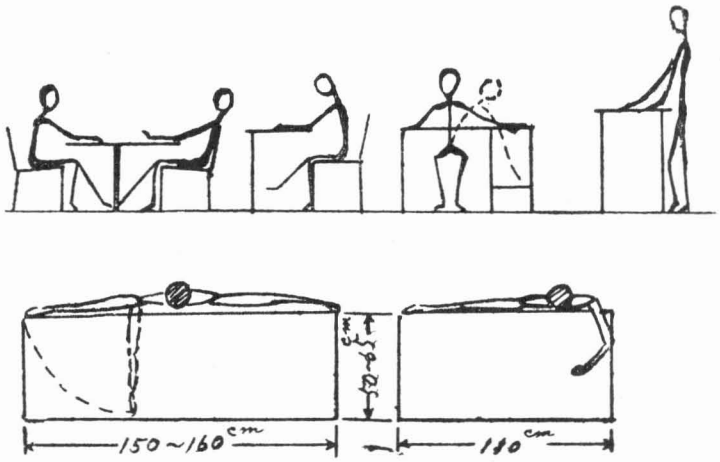
――農家と木工（4）――

お茶や雑談のためのテーブルの甲板が低くなったのは、確かに近代的なものであって、それはまず休息の姿態で使う椅子が低くなったことから起ったものである。

この椅子と相対時に使うテーブルが、少くとも肱木の高さ以上であっては腕の動作に円滑さを欠くし、不快なものになるからである。

従って、テーブルやデスクの高さはわれわれの、姿態や動作特に上肢の水平の運動範囲によって決るが、更に眼からの距離や、甲板面で扱われる物品の大きさ及び作業の目的如何によって読書、事務用、食事用、調理用等のような種々の高さと広さを必要とするものが生じて来る。

食事用のテーブルの高さは、普通のデスクの場合より低目の差尺で二六糎（机と椅子との高さの差）がよいというのは意味がある。それは仕事椅子にかけて食事をとるときの腕や肱のなめらかな動作は、肱をついて書写するときのものより低目の方が望ましいためである。この差尺が余り大きいと動作から起る不快さで食事はまずく、落着のないものになる。



外国では机と椅子との差尺は三〇糎においているが、日本では二八糎が標準とされている。従ってテーブル等の高さを求める際は、使用される椅子が基準となって、それに差尺を加えればよい。

B　甲板の面積

甲板の広さは前述の理由から定まるのであるが、今上肢の活

一、機能と構成

卓子や机というものは、その甲板が役割の大部を果すのであって、他の脚の部分は全く甲板を支える構造体に過ぎない。

壁から脚なしの卓子が発生したり一本脚で床から固定されている卓子があらわれたり、天井から釣られた卓子等はこの夢へのあらわれといえよう。

卓子類は、椅子と同様に、人体の姿態や動作によって直接関係する家具であるから、人体の動作の補助的役割をもつ道具であるとも云える。又人間以外の器物との関係もあるので解釈することは出来ない。

A　高さ

動面積のみを基準に考えると、机の幅は人の肩巾及び両方へ張つた肱巾である。又大型机のものでは、上肢を左右一杯に伸し切つた両上肢間の距離が基準となる。これは最大限である。（図参照）

甲板の広さは、又仕事の内容からも決定される。例えば脇卓子などの場合は広い面積を必要としないが、普通の茶卓子では少くとも三・四人以上の人々によつて、ゆつたりとした状態で使用されるため、その大きさは余裕がなければ落着かない。

一般的には、室内面積の経済的関係から小さすぎるものが多いようだ。卓子の甲板面積は一〇〇糎×七〇糎以下のものは、高さとの比例から美的なものとはならない。

C 形 態

甲板の形状が横に長い矩形であることはわれわれの動作が前後より横の方向に多いからである。又室内の配置の関係や、これを囲む椅子の調和の上から種々の形のものが考えられる。然しこの場合、縦横の均合が非常に大事な役目を果すものである矩形や長手の曲線的なテーブルは一対二の割合よりもつと大きい比例のものがよい。

これらは脚の長さ及びその位置など均合と共に、テーブルの形状に関する重要な問題である。

机は卓子と違つて甲板の外に、身の廻り品、仕事のための書類事務用具を収納する袖付や引出がついている。

最近は前引出は動作の合理から段々なくなる傾向にある。

又袖付の机は重いので、製作の容易と運搬、移動の点から甲板と袖付及び脚部とが別々な組合せになつた構成が多くなつてきた。

其の他、現代的要求である折込卓子は、仕事や人数の増減によつて甲板の面積を変化し得るものであり、折畳式卓子は、部屋の経済的利用の点から工夫されたものである。

二、材 料 と 技 術

卓子類の最も重要な部分としての甲板は、そのほとんどが木材をはぎ合せて広くしたものであつたが最近はベニヤ板や良材の薄板貼付によつて板の狂歪をも除くように工夫された。

これらは、従来の耐湿性のない膠に代る強力な尿素樹脂接着剤の利用によつて完全なものになりつゝある。

更に化粧板として、薄い種々の合成樹脂がその表面に貼られたりしている。

又、ホモゲンホルツやメソナイトの様な、木材や植物せん維に化学的処理を行つて造られた人造板を使つて、一層狂歪性が少くなつた。

この新しい材料の発明は、貴重な木材の経済的利用の上からも、又甲板と脚の結合構造が簡単に処理される点から重要な意義をもつている。

最近、家具材料として石材、ガラス、金属、合成樹脂其の他化学製品が登場したが、人間の触感はあくまで木材や植物せん維の軟さを固執していて、木材などの自然なものの中から美しさと親しさを求めている。

卓子の脚は、今のところ機能的な意味を余りもたないとしても構造的に大きな役割を呈していることは事実である。どのテーブルやデスクも脚がグラグラしたりころころするものは単に不安定な不快感を与えるばかりでなく、卓上の茶をこぼしたり凡ゆる場に不都合が生ずる。だからこの構造は非常に厳しいものでなければならない。

卓子類等の家具は、その仕上げの色調、光沢にも重要な意義がある。只今流行の明るい素地色のみが現代人の好みを代表するものとは限らないから、室内の調和を考えて、種々の色調を考察する必要がある。

以上のように、機能、材料、技術の新しい工夫と条件が結合して新しい形態のテーブル、デスク等が創り出されて、われわれの生活を明るく且つ親しみのあるものにする（つゞく）

（岸 本 幸 安）

読者だより

質問 農家であり乍ら蔬菜に事缺く現状であります。保健衛生面から一年中新鮮な野菜をとるには五人家族として、どう計画したらよいでしようか。面積、品種、各月毎図表によつて御教示御願い致します。

名護町普及員 比 嘉 久 三 郎

答 普通作物が熱量生産を主目標とするに対し、蔬菜はビタミン類の生産が目標であると云える。故に最もよくビタミン類を生産する様計画を樹てるのが国民のための蔬菜園芸であり、又一家族に対し出来るだけビタミン類を週年供給する様に生産計画をたてるのが自給園芸の目標である。すなわち単位面積からどれだけのビタミン類を生産し、どれだけの期間、労力、資材を要するかと云う事を検討して、栽培すべき種品種の選択にかゝらねばならぬ。

自給園に於ける生産計画は、先づ一人当一日の消費量及び坪当り生産を基礎にして行われる。大体成人一人当り七〇―一〇〇匁とされる。即ち年二四―三六貫である。種目其の他もよるが蔬菜の反当収量を平均三百貫とみれば坪一貫となり、一人当二四、三六坪を要する。平均二回輪作するとすれば、所要の実面積は十二―十八坪という事になる。五人家族では六十坪程の自給菜園があると、一人一日三十分の労力をもつて管理し、肥料も自給可能である。

如何なる種目を栽培すべきかについては、時期、土質、労力、資材、輪作関係を考慮すべきだが、ビタミンA、B_1、B_2、Cの生産力の高いものを選ぶべきである。日本農林省が指定する必需蔬菜は次の十九品目である。

甘藷、馬鈴薯、里芋、大根、ごぼう、かぶ、玉葱、人参、白菜、甘藍、ほうれん草、かぼちや、きゆうり、茄、トマト、そらまめ、えんどう、いんげん、

その内ほうれん草はビタミンA、B_1、B_2、Cの生産力極めて